

第4回 スマート・エコパークに関する検討会 議事要旨

日 時：平成27年2月23日（月）10:00～12:00

場 所：経済産業省別館11階1107共用会議室

出席者：中村委員（座長）、大木委員、白井委員、佐藤委員代理（鈴木委員代理出席）、山田委員代理（長谷川委員代理出席）、松本委員、山本委員、星野委員、深瀬委員

議題：1. 対策地域内における廃棄物の処理状況
2. 先進的リサイクル事業に関する情報提供
3. スマート・エコパークの方向性について

議事概要：

（1）対策地域内における廃棄物の処理状況

第3回検討会で福島県が説明した廃棄物処理の現状と課題を踏まえ、環境省等による対策地域内における廃棄物処理の現在の進捗状況や今後の取組等について山本委員より説明。

（2）先進的リサイクル事業に関する情報提供

炭素繊維複合材料とそのリサイクルの概要について三菱レイヨン株式会社より説明。バイオマスを活用した発電技術等についてJFEエンジニアリング株式会社より説明。

（3）スマート・エコパークの方向性について

本検討会のこれまでの議論を振り返りつつ、今後のスマート・エコパークの方向性の考え方等について、委員から意見を聴取。

（4）委員等からの主な意見等は以下のとおり。

- ・ 対策地域内における廃棄物処理の取組は着実に進んでいるが、帰還の本格化後の家屋の解体や片付け等で、廃棄物量の増加も想定される。引き続きしっかり進めていきたい。
- ・ 炭素繊維リサイクルは製造段階に比べエネルギー負荷面で優位性があるが回収、リサイクル、販売のシステムは未確立であり、リサイクルには課題も多い。経済原理で円滑に処理できるシステムの構築が必要。
- ・ バイオマスの活用は、燃料調達での林業への波及など、地域に広く効果がある。熱利用やガス化も含めて、地域のまちづくりと一体的に取り組めば廃棄物処理の点からも意義が大きいのではないか。
- ・ 今後の方向性について、リサイクル施設が迷惑施設にならないよう、エネルギー利用との関連性も含め、地域のまちづくりにうまく組み込まれた形で今後の復興が進展していくことが重要。継続的な取組にするためには、関係機関の協力も得つつ、産業人材の育成も併せて行う観点も必要。